

西宮市幼児教育・保育ビジョン（素案）【概要版】

1 西宮市幼児教育・保育ビジョンとは

このビジョンは、それぞれの施設の理念・特色を尊重しつつ、西宮市内で質の高い幼児教育・保育を実現していくうえで、大切にしたいことを共有するために、まとめたものです。

2 このビジョンが目指すもの

- ◆子どもは、自発的・能動的に環境と関わりながら豊かな活動を展開していく存在です。そして、それぞれ豊かな個性を有しており、家庭や地域の環境も多種多様である中、子ども一人ひとりが大切にされ、子どもが主体性や本来の力を十分に発揮できるよう、「**子ども中心の幼児教育・保育**」を実現することが最も重要です。
- ◆乳幼児期の子どもは、遊びを通して、生涯を通じて生きる力の基礎となる「**根っこ**」としての内面の力を身につけていきます。また、子どもの健やかな成長には、子どもが常に安心して過ごせる場や親子関係が不可欠です。
- ◆西宮市では、すべての子どもが、乳幼児期にふさわしい環境の中で育つことができるよう、見守り・支えることを大切にしながら、子どもが安心して学び続ける意欲や能力を育むため、『**遊び**』と『**親子関係**』を大切にす幼児教育・保育に取り組みます。

「遊び」を大切にする

みつけて・ためして、とことん遊ぼう

「親子関係」を大切にする

ゆっくり・じっくり、親子になろう

子ども中心の幼児教育・保育

遊び

みつけて・ためして、とことん遊ぼう

子どもは

- ・自ら進んでやってみる
- ・自分の発想やアイデアを試す
- ・夢中になって遊び込む

保育者は

- ・とことん遊べる環境をつくる
- ・「遊び」を見守り・支える

親子

ゆっくり・じっくり、親子になろう

親子は

- ・ゆっくりと親子関係を築く
- ・頑張りすぎず、そのまま
- ・じっくり子どもと向き合う

保育者は

- ・親子と向き合う
- ・子どもの成長を保護者と共に喜びあう
- ・親子と共に育つ

3 みつけて・ためして、とことん遊ぼう



◇幼児教育・保育において「遊び」が大切な理由は、遊びを通して、生涯を通じて生きる力の基礎となる「根っこ」としての内面の力を身につけていくからです。乳幼児期に身につけた内面の力は、「後伸び（あとのび）する力」ともいわれ、その後の「自ら学ぶ意欲」や「生きる力」の土台となり、小学校や中学校などでの学びにつながっていきます。

◇こうしたことから、「とことん遊べる環境をつくる」、「遊びを見守り・支える」ことを大切にする幼児教育・保育に取り組みます。

(1) とことん遊べる環境をつくる

ア 安心できる守られた環境

- ◆子どもの発達を理解し、危険や不安のない「守られた」環境を整えることで、子どもは「やってみよう」と思う「遊び」を見つけ、自分の発想やアイデアを試すことができます。
- ◆子どもが「遊び」に熱中するには、「何度でもチャレンジできる」という「安心」も必要です。安心の基本は、保育者と子どもが愛情のこもった信頼関係で結ばれていることで、それは、保育者が日頃から、子どもに共感しながら関わっていくことで育まれます。子どもの「先生が見てくれて嬉しい。」という気持ちの積み重ねが自己肯定感につながっていきます。

イ 子どもに寄り添った環境

- ◆保育者は担当する子どもの発達や興味・関心を理解して環境を整えることが必要です。整えられた環境に子どもが主体的に関わり、「遊び」に必要な物を考え、作り、使って遊ぶことで、子どもは「遊び」の面白さを感じられるようになります。
- ◆子どもたちがどんな遊びを考えるかなど、子どもの興味や関心に思いを巡らせながら遊びを促すなど、子どもに寄り添う環境を考えることも大切です。

(2) 「遊び」を見守り・支える

- ◆子どもは、「遊び」を通して友達と協力し、折り合いを付けることなどを学んでおり、すべてが経験値として子どもの中に蓄えられていきます。この積み重ねは、友達とのトラブルが起きた時の「考える力」になります。
- ◆遊びが停滞して見えるときなどは、保育者はその状況や子どもの思いを汲みながら寄り添い、話かけてみたり、ヒントを与えながら、最後までやり抜けるよう支えることが大切です。
- ◆子どもの成長・発達の「道すじ」を十分に理解したうえで、一人一人の成長発達や興味・関心の理解に努め適切な環境を用意し、子どもが「遊び」の中で何を楽しみ面白いと感じているのかを汲みながら、見守っていきましょう。

4 ゆっくり・じっくり、親子になろう



- ◇子どもの健やかな成長には、子どもが常に安心して過ごせる場や親子関係が不可欠です。親がありのままの自分を受け入れてくれる、好きでいてくれる、認めてくれると子どもが感じたとき、親が子どもにとって安心でき、信頼できる存在となり、子どもは自己肯定感、自尊感情を育んでいくことができます。
- ◇そのために、「親子と向き合う」、「子どもの成長を保護者と共に喜びあう」、「親子と共に育つ」ことを大切にする幼児教育・保育に取り組みます。

(1) 親子と向き合う

- ◆保育者は、普段から保護者とおしゃべりや交流の機会を設けるなど、対話の積み重ねを大切にし、子育てに不安を抱える保護者が気軽に話せる存在になりましょう。
- ◆施設での日々の保育や、様々なイベント・保護者同士の交流などを通して、周囲や地域とつながり、対話の輪が広がっていく環境づくりをめざしましょう。

(2) 子どもの成長を保護者と共に喜びあう

- ◆保護者が子どもの成長に気づき、喜んでいけるよう気づきを促し、伝えていくことが、良好な親子関係づくりにとって大切です。保育者という第三者が入ることで、保護者自身が色々なことに気づきやすくなり、保護者が普段と違うところに目を向けるきっかけをつくっていくことが可能となります。
- ◆**ドキュメンテーション**（注：子どもの経験や活動のプロセスを視覚的に伝え共有できるよう、写真や図、コメントを用いて表すもの）等による情報提供、保護者が保育を体験する「**保育参加**」、「**保育参加**」後の保護者同士による**グループディスカッション**などの取り組みや、機会づくりを進め、保護者と共に子どもの成長を喜びあいましょう。

(3) 親子と共に育つ

- ◆保護者と保育者との関係は必ずしも一方的なものではなく、お互いの関わり合いの中で、向き合い、影響を与えながら成長していくことから、保護者と保育者はパートナーの関係にあるともいえます。
- ◆すべての親子と保育者が共に育ちあいながら、豊かな関係を築いていくことを大切にしましょう。

5 ビジョンの実現に向けて



(1) 保育者が学び続け、成長していける場の提供

- ◆保育者は、OJT（日々の保育やスーパーバイズなどを通じた学び）、Off-JT（園内研修・外部の研修などへの参加を通じた学び）、SDS（自己研鑽による学び）を組み合わせ、常に資質・能力や技術を磨き、その専門性を向上させるとともに、保育に関する「計画」、「実践」、「振り返り」のサイクルを重ねて保育者同士の理解と共感を深め、保育の質を高めるよう取り組みます。
- ◆保育者がキャリアパス（注：経歴や役職を意味する「キャリア」を積んでいくための経験やスキルを身につける過程・道筋）に必要なノウハウを習得できるよう、西宮市が主催する研修について、保育者が研修を受講しやすい環境づくりを行います。さらに、保育者同士が交流し、子どもの育ちについて意見を交わし、お互いを高めあえる場づくりに取り組みます。

(2) 施設の枠を超えた保育者相互の高め合い

- ◆市内の幼稚園・保育所・認定こども園などが持つ特色のあるカリキュラム、マニュアル、教材、研究成果などを互いに共有し、参考にできるよう、施設の枠を超えた保育の公開・情報共有に取り組みます。
- ◆設置主体や施設種別にかかわらず、保育者が意見交換や交流できる場を設け、保育者相互が高め合っているよう、市と関係施設等が協働して取り組みます。

(3) 乳幼児期だけでなく、就学以降も意識したサポート

- ◆西宮市内でこれまで実施してきた「つながり事業」を通じて、幼児期から児童期への接続期の発達特性を理解し、互いの共通点や相違点について相互理解を深めるとともに、地域の小学校と幼稚園・保育所・認定こども園などの連携を強化し、日頃から気軽に職員同士が意見や情報を交換し、加えて子どもが交流できる関係づくりをさらに進めます。
- ◆支援や配慮が必要な子どもに対しても、必要なサポートが切れ目なく受けられるよう、各施設と小学校がより密接に連携、情報交換するとともに、それらを支援するため、こども未来センターや保健福祉センターなどが専門的な視点からのサポートを進めます。

(4) 保護者支援と地域に根差した取り組みの推進

- ◆各施設は、園庭開放、体験保育や一時預かり事業、子育てひろば事業など、その環境・資源と専門性を活かした取り組みを積極的に進めます。また、保護者に寄り添い、家庭や地域でも子育てを前向きに捉えてもらえるよう、保育者が保護者とのコミュニケーションや、ドキュメンテーションを通じた情報提供などに取り組みます。
- ◆各施設は、地域行事への参加・交流を積極的に行い、地域に根差した存在となるよう取り組みます。